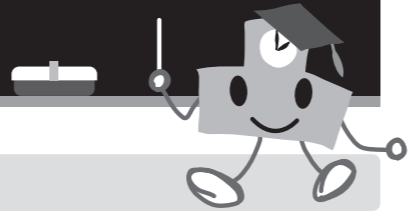


小学校の事例 豊平区 西岡南小学校

# ホタルが舞う自然豊かな水源池で、6年間の自然観察。

水源池という身近な自然とふれあうことで興味を高め環境意識に結びつける。豊かな自然に生息する生き物や植物を通じて生物多様性も学べる教育活動に。



## 内容 1人1冊ずつのファイルに観察を記録

地域の特色ともなっている自然豊かな「西岡水源池」は、整備の行き届いた遊歩道や広場で、自然を観察する活動をしたり、自然環境とふれあうことができる場所である。本校では、この水源池の探検や森林総合研究所見学を行うなど、自然に親しみ、学習する時間を設け、環境教育に取り組んでいる。

### 1～2年生（生活科）

- 「生き物と友達になろう」
- 「生き物のことを教え合おう」

### 3年生（総合的な学習の時間）

- 「生き物を中心とした活動」
- 「水源池の虫探検」

### 4年生（総合的な学習の時間）

- 「植物を中心とした活動」
- 「春を探しに」

### 5年生（総合的な学習の時間）

- 「水源池の自然・・・植物・昆虫・木・鳥など」

### 6年生（総合的な学習の時間）

- 「森林を大切にしよう」・・・森林総合研究所の見学

全学年、1人1冊の「記録用ファイル」を用意して活動。事前に調べる時間、観察活動、記録と最後にまとめる時間を設け、高学年は個人の感想だけでなくグループでの新聞作成や発表の場を作り、より理解を深めていけるように工夫している。



活動の流れや注意事項を聞いているところ



虫探検のようす



森林総合研究所を見学する6年生

## 効果 四季それぞれの自然を観察

水源池には多くの生き物や植物が存在しており、トンボだけでも相当な種類を見ることが可能。札幌市内では珍しく、ホタルを見ることもできる場所だ。子供たちはここで、春は水辺の雪解けの観察、夏は木々や昆虫、ヘビなどを含めた小動物の観察を行い、秋にはクリやドングリなどの木の実、紅葉を見て、実際にふれることができ、低学年のうちから自分たちの住んでいる地域で自然に向きあう体験活動をすることで、より身近なものとして自然環境を見つめることにつながっている。

学年を追うごとに、自然環境についての知識が深まり、

自然を愛護する気持ちが育まれるとともに、地球全体の環境問題にも問題意識がもてるようになった。



水源池にいるカモなどを観察

## 今後 「豊かな自然」を さらに教育活動に取り入れる

学校から水源池までは、低学年では徒歩で約30分近くもかかる。このため、現地での体験活動に十分な時間を確保することが難しいという悩みも抱えている。また、天候により大きく左右される活動のため、月によっては日程の確保に苦労することもある。今後、平成23年度から総合的な学習の時間が減少することもあり、学校としても工夫した取組方法を考えているところである。

また西岡公園事務所が中心となって活動している「西岡やま団」には本学校の児童も参加している。子供たちが作った昆虫の標本を2週間程度、空教室で展示したり、地域で放送されているラジオ番組に出演して、調べたことや活動について話す機会もあった。今後は現地での調査・体験活動に加えて、事務所の方による出前授業なども検討している。




水源池の風景



子供たちが作った昆虫の標本

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

本校では、幼・小・中の連携や情報共有や学びの連続が、より豊かな環境教育の推進につながっていくと考え、様々な切り口で交流を進めています。たとえば、すぐそばにある中学校とは学校間の行き来が盛んで、PTA主催のイベントのふれあいフェスタ（バザー）や職業体験で中学生が頻りに小学校へ来て参加してくれます。そして、こちらからはアルミ缶回収に協力しており、参観日等に保護者から集まる大量のアルミ缶を、中学校生徒会へ渡しています。